

証券コード：4651

2026年 3 月期 第 1 四半期 説明資料

株式会社サニックスホールディングス
2025年8月13日

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37

2026年3月期1Q決算概況

住環境領域及びエネルギー領域においては、営業利益では前年同期を上回った。資源循環領域では、苫小牧発電所の大規模投資及び4年に一度の法定点検を計画通りに4－6月に実施したため、営業利益は△227百万円減となった。通期計画は変更なく、今期 **21年ぶりの復配** を目指す。

	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期 差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
(百万円)						
売上高	10,288	10,531	+ 242	102.4%	22,026	47.8%
売上総利益	3,526	3,263	△ 262	92.5%	7,773	42.0%
営業利益	△ 116	△ 343	△ 227	—	512	—
経常利益	△ 185	△ 539	△ 353	—	257	—
最終利益	△ 255	△ 640	△ 385	—	187	—

2026年3月期1Q セグメント別概況

住環境領域

戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスに関する事業

- 戸建住宅向けサービス(HSE)事業
- 法人・集合住宅向けサービス(ES)事業

資源循環領域

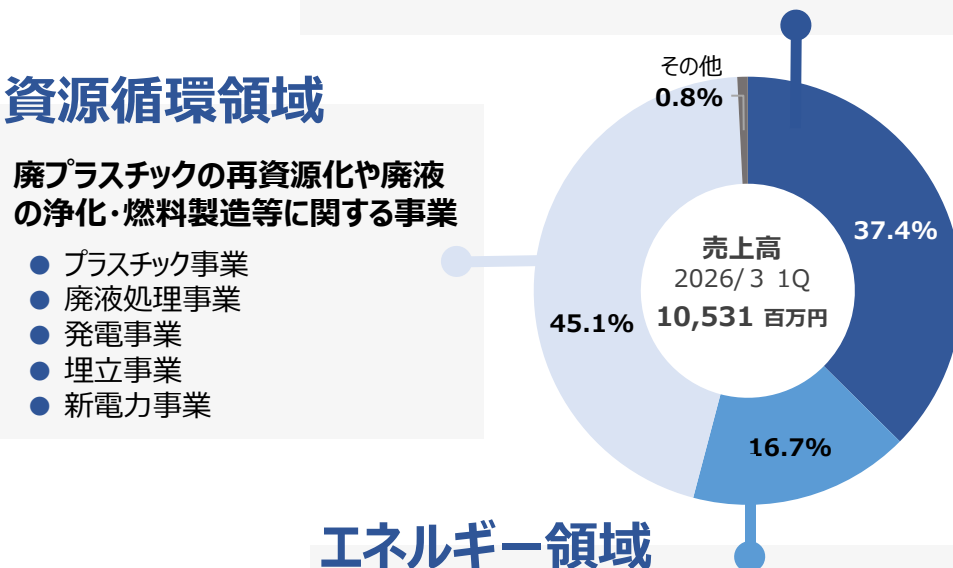
廃プラスチックの再資源化や廃液の浄化・燃料製造等に関する事業

- プラスチック事業
- 廃液処理事業
- 発電事業
- 埋立事業
- 新電力事業

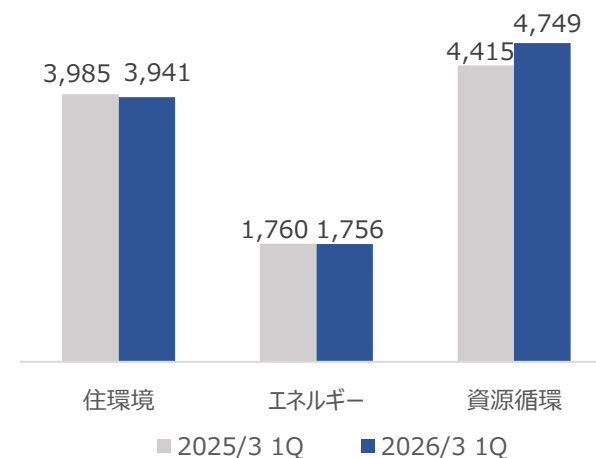
エネルギー領域

企業・法人向け太陽光発電システム等の販売、施工、メンテナンス等に関する事業

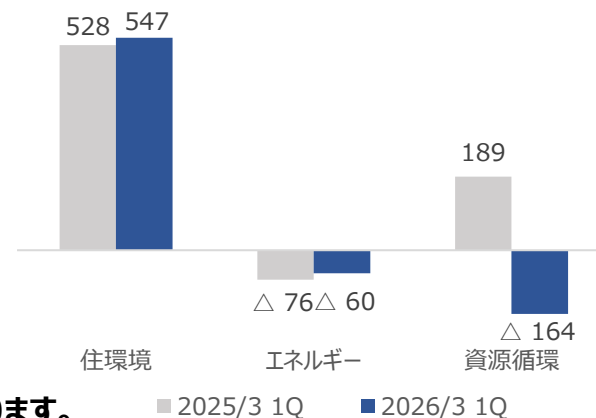
- 法人向け太陽光発電事業



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分を変更しております。

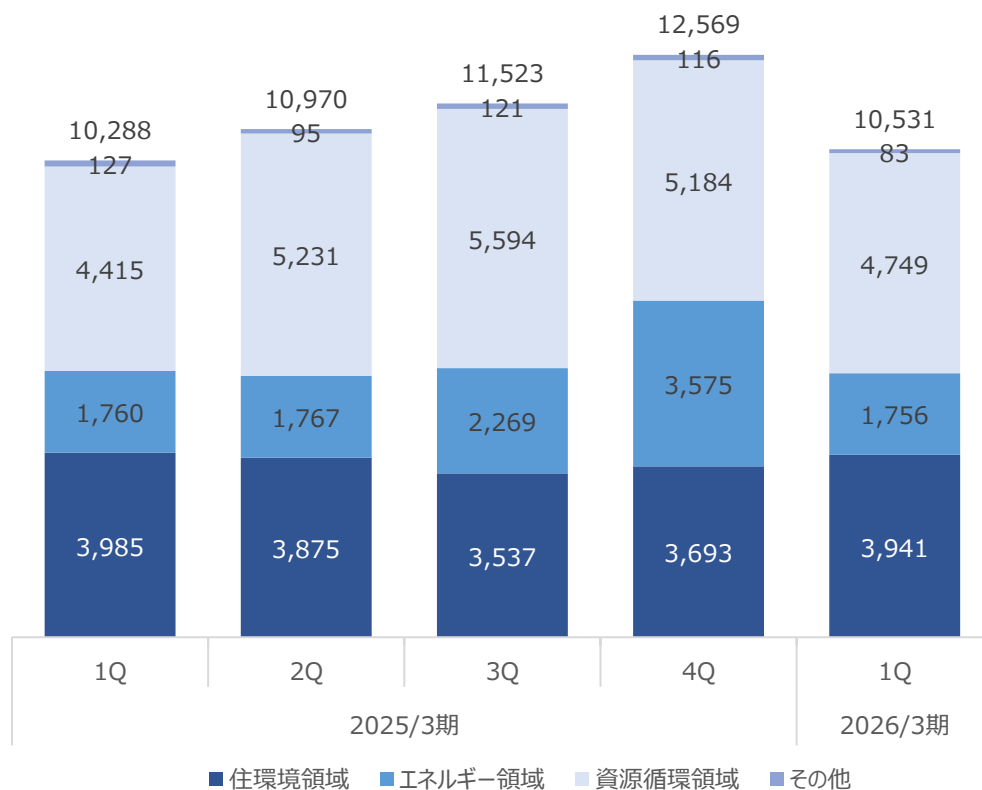
2026年3月期1Q セグメント別概況

住環境領域	売上高 営業利益	3,941 百万円 547 百万円	対前年同期 (△1.1 %) (+3.7 %)	✓営業力及び顧客基盤を活かした既存事業の拡大と事業の統合や業務提携等による多様な住宅環境ニーズの取り込みを加速。加えて、安定した収益基盤を確保できたことにより増益
エネルギー領域	売上高 営業利益	1,756 百万円 △60 百万円	(△0.2 %) (+16 百万円)	✓採算性を重視した受注の管理を徹底し、将来の安定的かつ持続的な利益成長につながる基盤を強化した結果、わずかに減収となったものの利益改善
資源循環領域	売上高 営業利益	4,749 百万円 △164 百万円	(+7.6 %) (△353 百万円)	✓発電事業では、法定点検等の実施に伴い、稼働停止(4-6月)の影響及び修繕コストが増加したことで減益となったものの、プラスチック事業及び廃液事業は堅調に推移したことで増収
その他/本社費用	売上高 営業利益	83 百万円 △666 百万円	(△34.7 %) (+90 百万円)	✓各事業会社の成長と自立性を加速させるための人材の再配置等を実施したことで本社費用減少

※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分を変更しております。
変更により、前期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で前期比較しております。

2026年3月期1Q売上高（四半期推移）

(百万円)



対前年同期比
+2.4%増

住環境領域 △1.1%減

エネルギー領域 △0.2%減

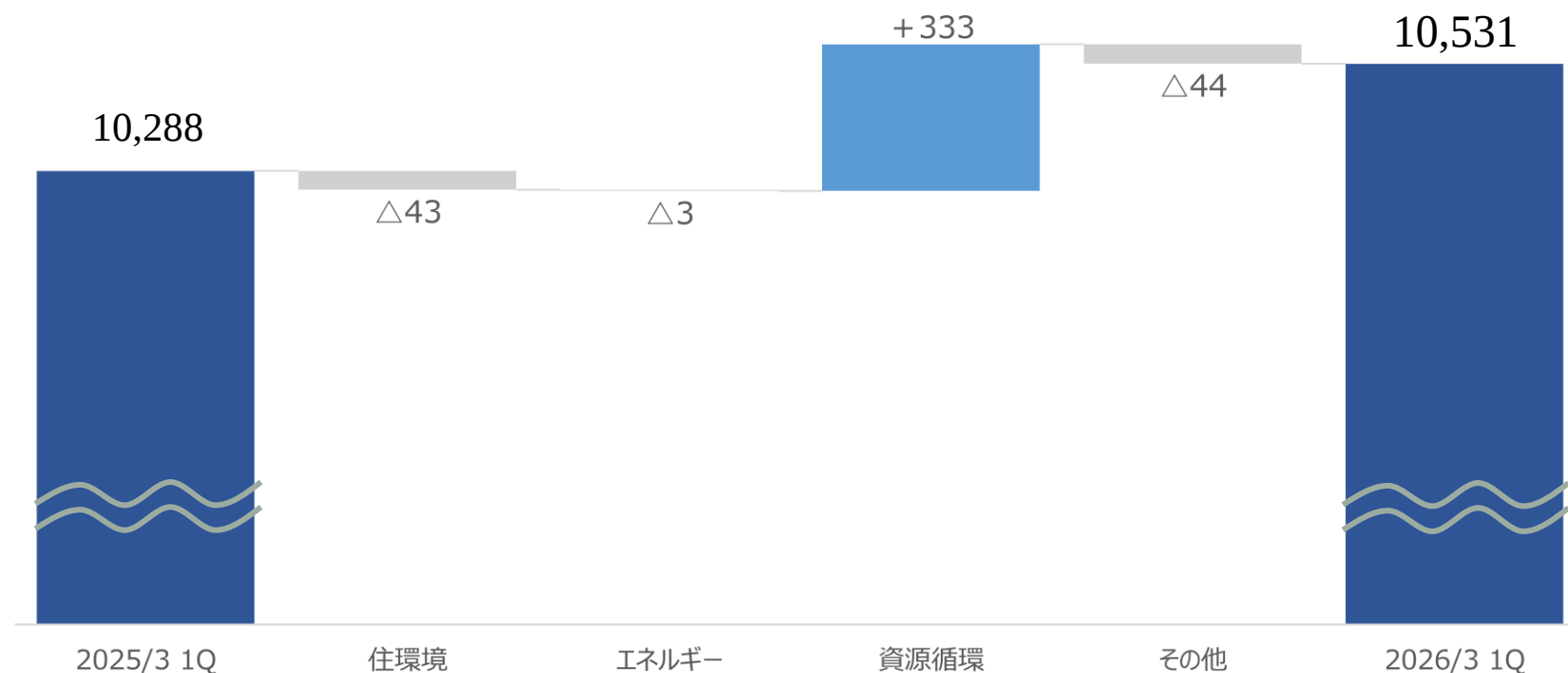
資源循環領域 +7.6%増

2026年3月期1Q売上高 対前年同期増減分析

売上高

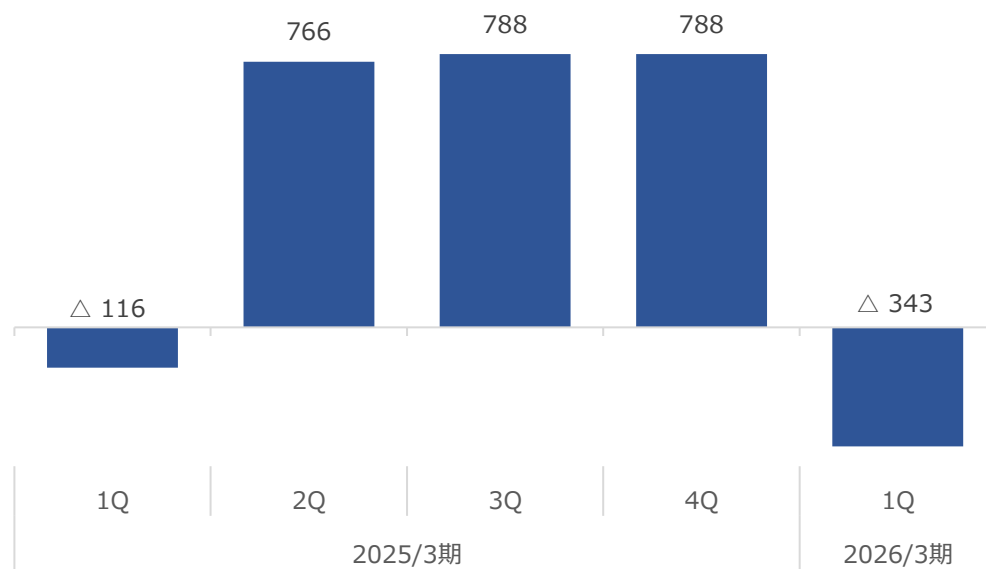
対前年同期 **+ 242** 百万円

(百万円)



2026年3月期 1Q 営業利益（四半期推移）

(百万円)



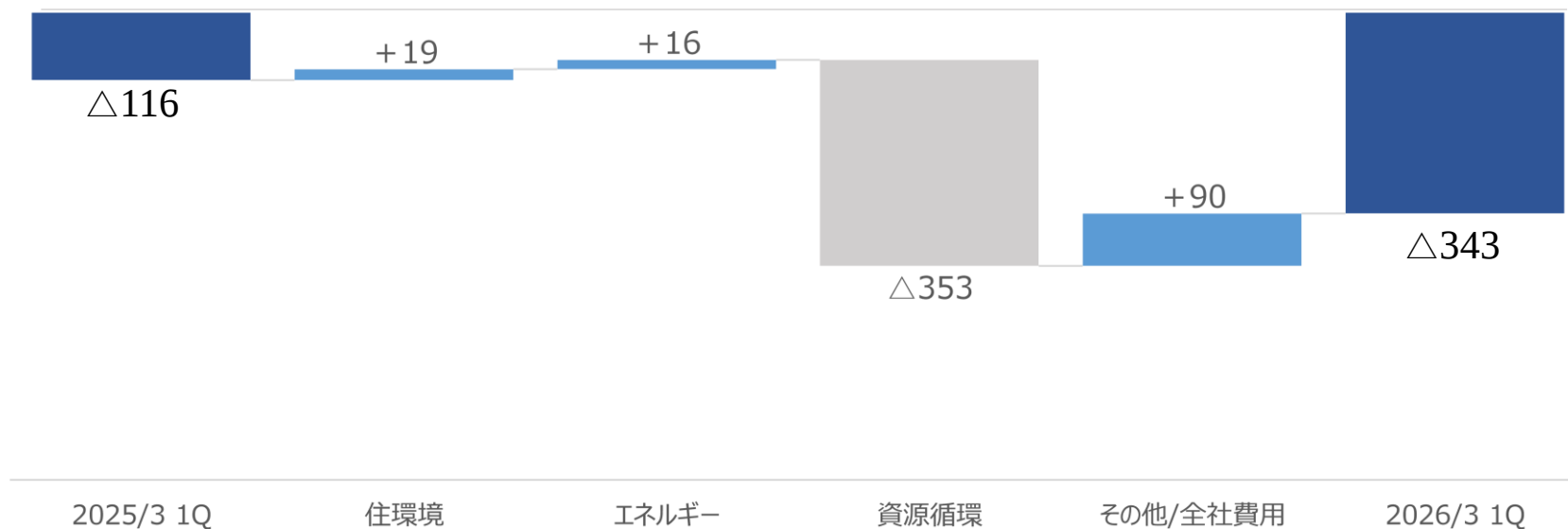
対前年同期
△ **227** 百万円

2026年3月期1Q 営業利益 対前年同期増減分析

営業利益

対前年同期 $\triangle$ 227 百万円

(百万円)



1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サニックスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

戸建住宅向けメンテナンス(HSE)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。



住宅用太陽光発電システム



蓄電池

集合住宅向けメンテナンス(ES)事業

給排水設備メンテナンスの効率的・一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。

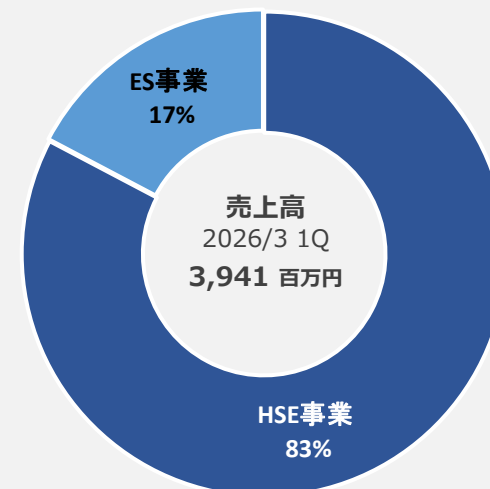


ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

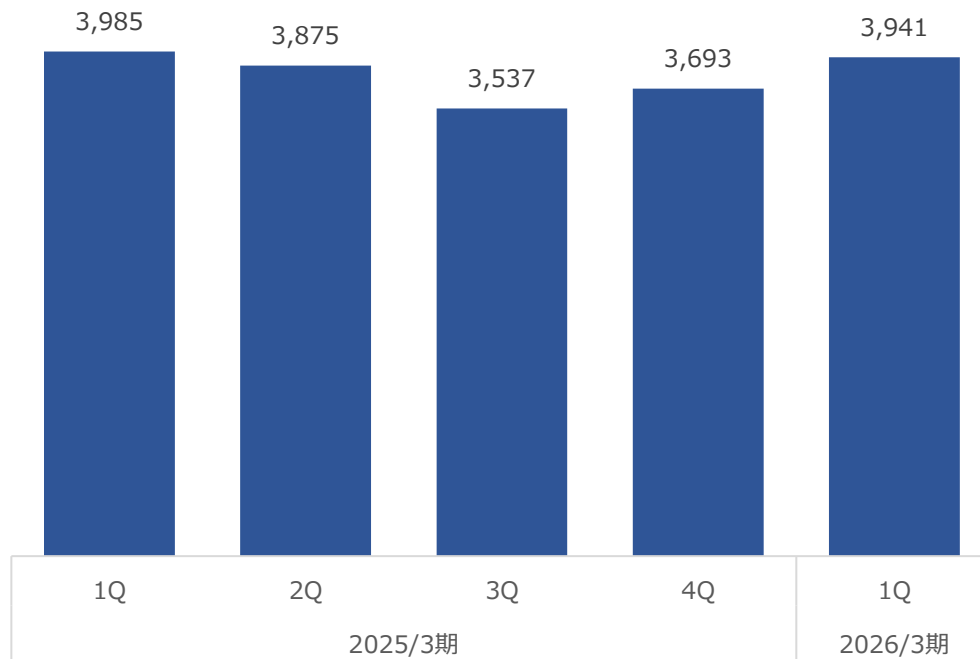
住環境領域 売上高構成比



住環境領域 | 売上高

営業力及び顧客基盤を活かした既存事業の拡大と事業の統合等による多様な住宅環境ニーズの取り込みを加速。安定した収益基盤の確保により前年同期並みに推移

(百万円)



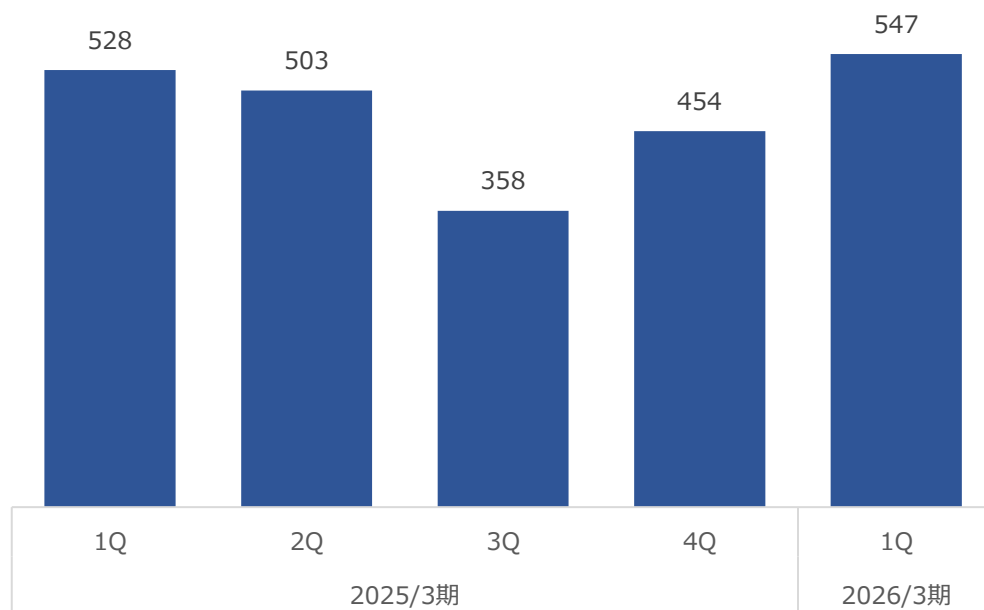
対前年同期比

△1.1%減

住環境領域 | 営業利益

固定費の圧縮及び安定した収益基盤を確保できたことにより増益

(百万円)

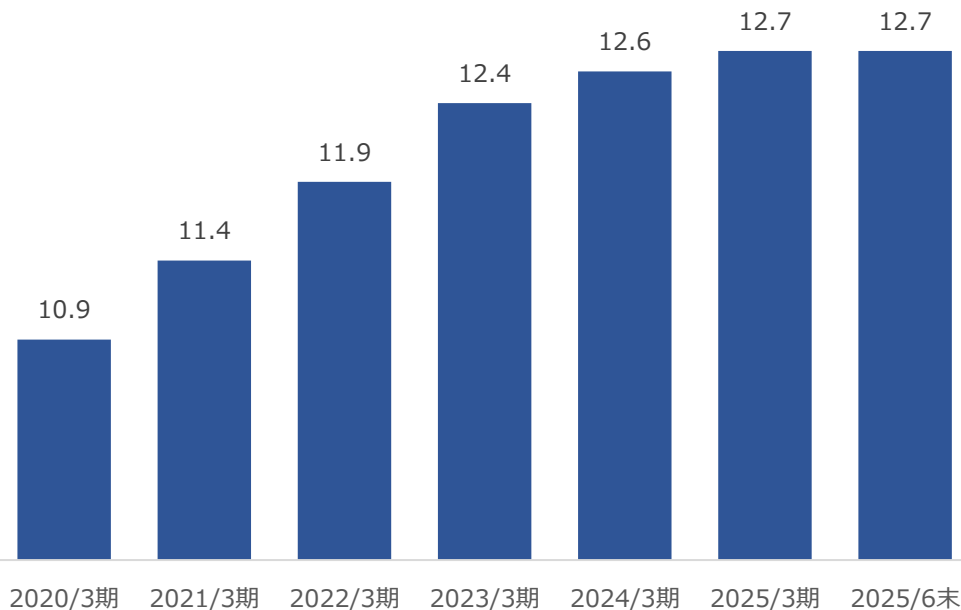


対前年同期比
+3.7%増

住環境領域 | 顧客件数

2020年3月期以降、顧客基盤は約2万件増加

(万件)



強固な顧客基盤

12.7万件

(2025年6月末現在)

※顧客件数は、HSE事業の保証契約継続中の顧客数を記載

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発

サニックスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

法人向け太陽光発電(PV)事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



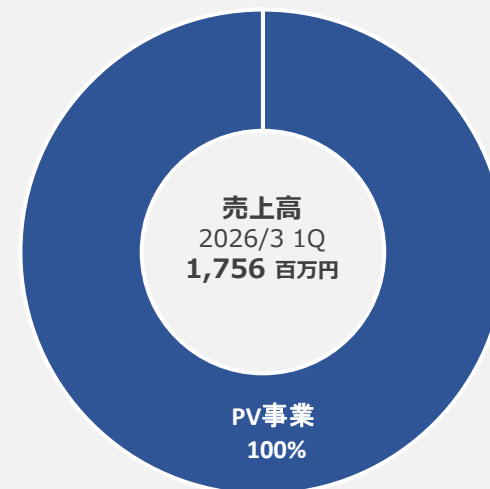
非FIT電源開発



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼動をサポートします。

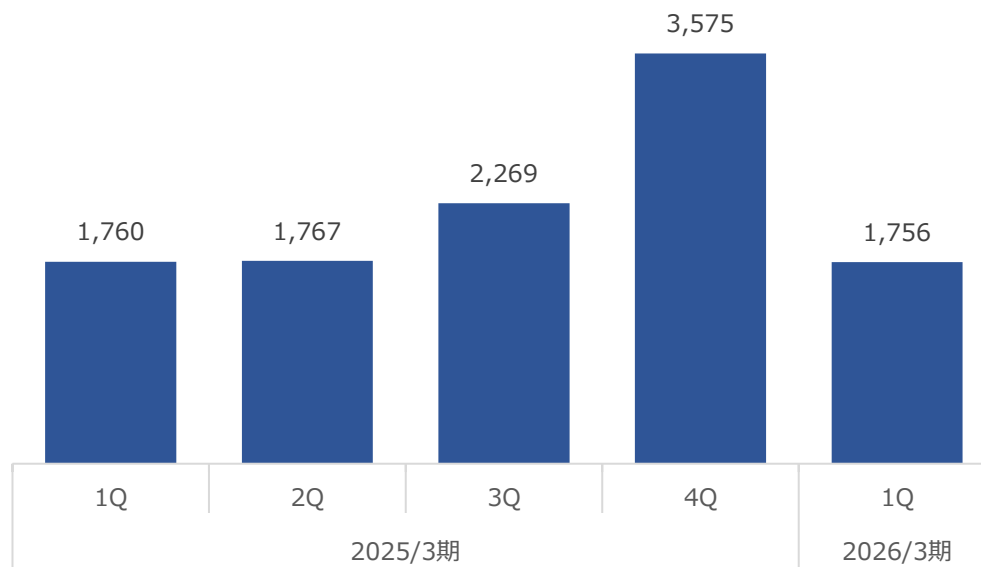
エネルギー領域 売上高構成比



エネルギー領域 | 売上高

採算性を重視した受注の管理を徹底し、将来の安定的かつ持続的な利益成長につながる基盤を強化した結果、わずかに減収となったものの前年同期並みに推移

(百万円)



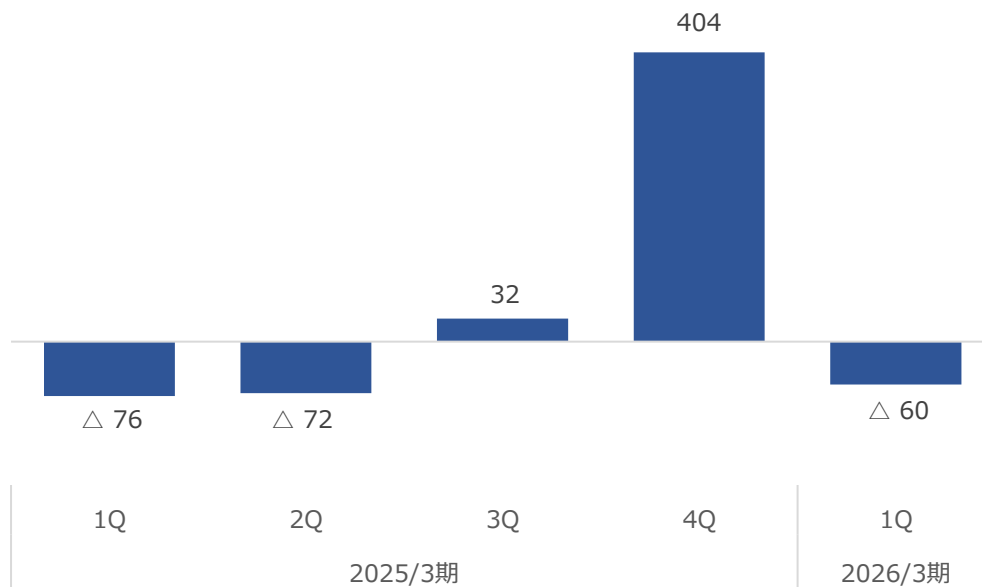
対前年同期比

△0.2%減

エネルギー領域 | 営業利益

案件ごとの採算性管理の徹底及びコストの見直し等による事業構造の転換を継続して実施したことで利益改善

(百万円)



対前年同期
+16 百万円

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電、電力小売
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンイクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なくて済むことから、環境負荷が低く、付加価値（非化石価値）の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ビットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水污泥の燃料化リサイクルも推進しています。

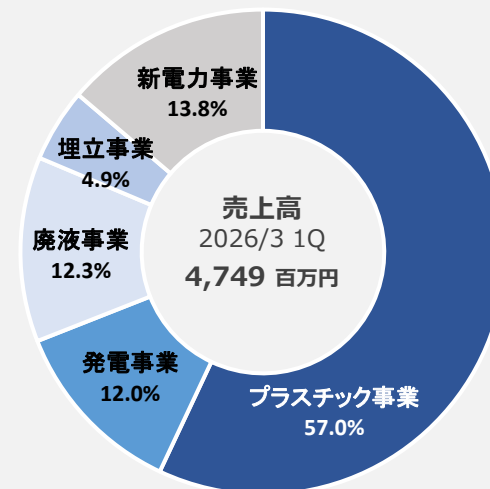


廃液処理工場



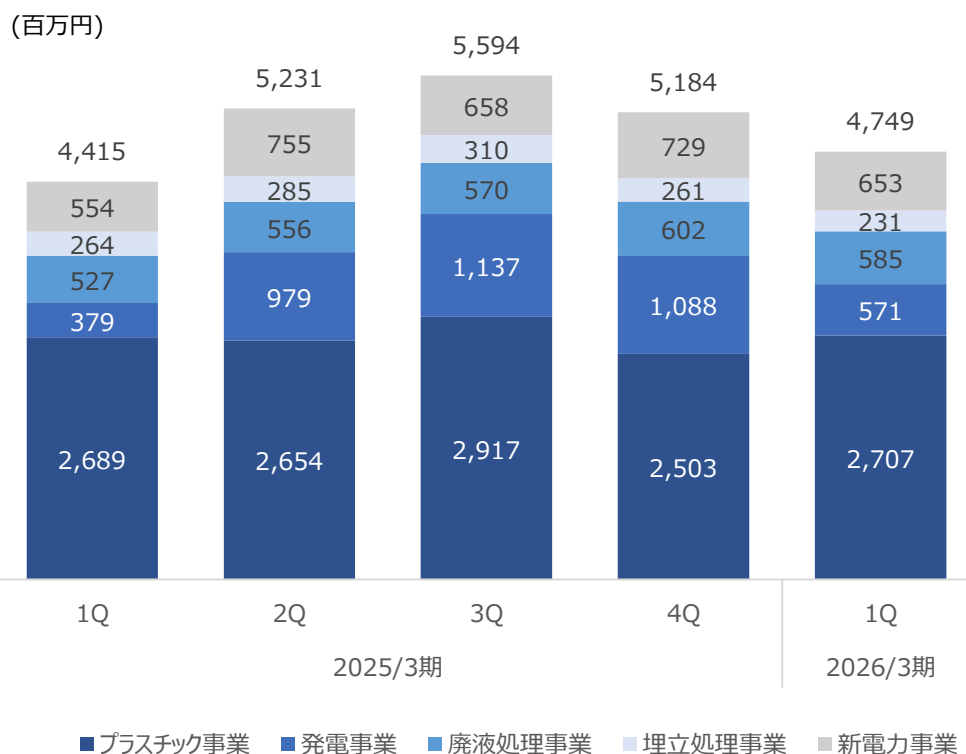
電力小売

資源循環領域 売上高構成比



資源循環領域 | 売上高

発電事業では、法定点検等による稼働停止(4-6月)の影響があったものの、卸電力取引市場から電力を調達し、単価の高い新たな小売先へ販売したことで増収。また、プラスチック事業及び廃液事業では、受入量がそれぞれ増加したことにより増収



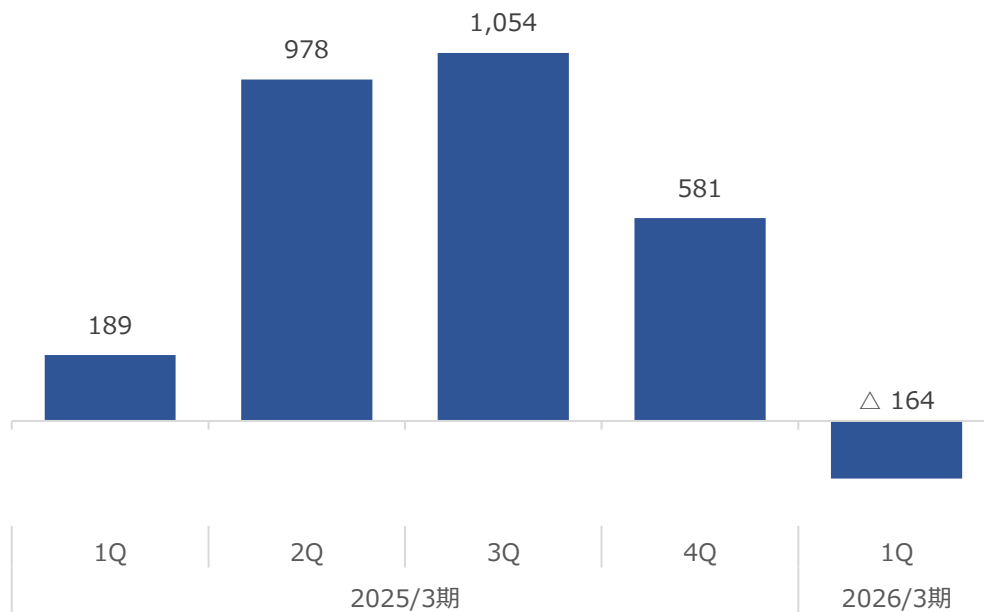
対前年同期比
+7.6%増

プラスチック事業 **+0.7%増**
 発電事業 **+50.4%増**
 廃液処理事業 **+11.0%増**
 埋立処理事業 **△12.4%減**
 新電力事業 **+18.0%増**

資源循環領域 | 営業利益

発電事業において法定点検等を実施したことから、稼働停止(4-6月)の影響及び修繕コストが増加したことで減益

(百万円)

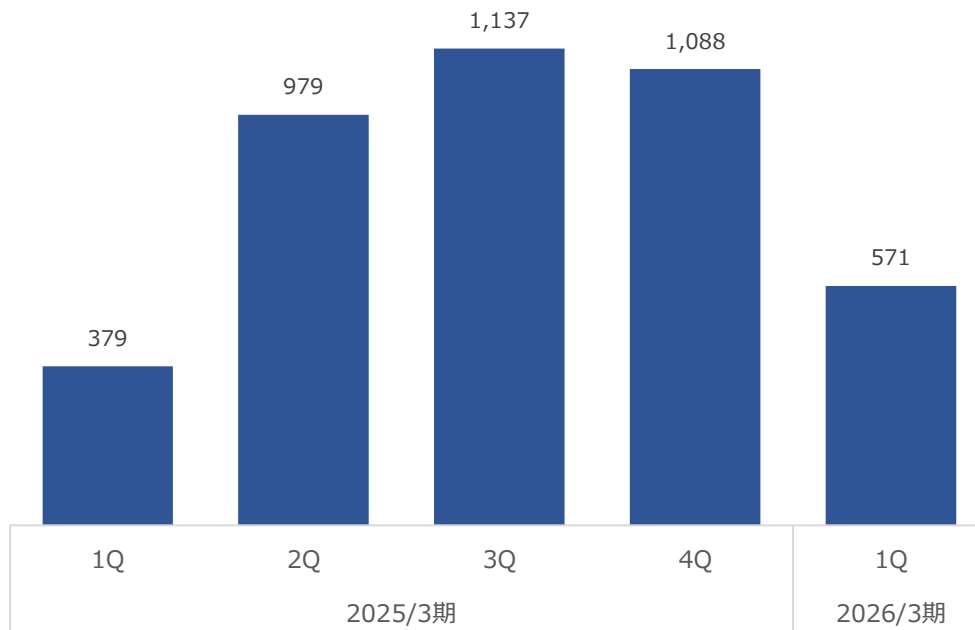


対前年同期
△ 353 百万円

資源循環領域 | 発電事業 売上高

将来的な安定稼働・効率化に向けて、大規模投資及び法定点検を実施したことで自社発電は稼働日数が減少したものの、卸電力取引市場から電力を調達し、単価の高い新たな小売先へ販売したことで増収

(百万円)



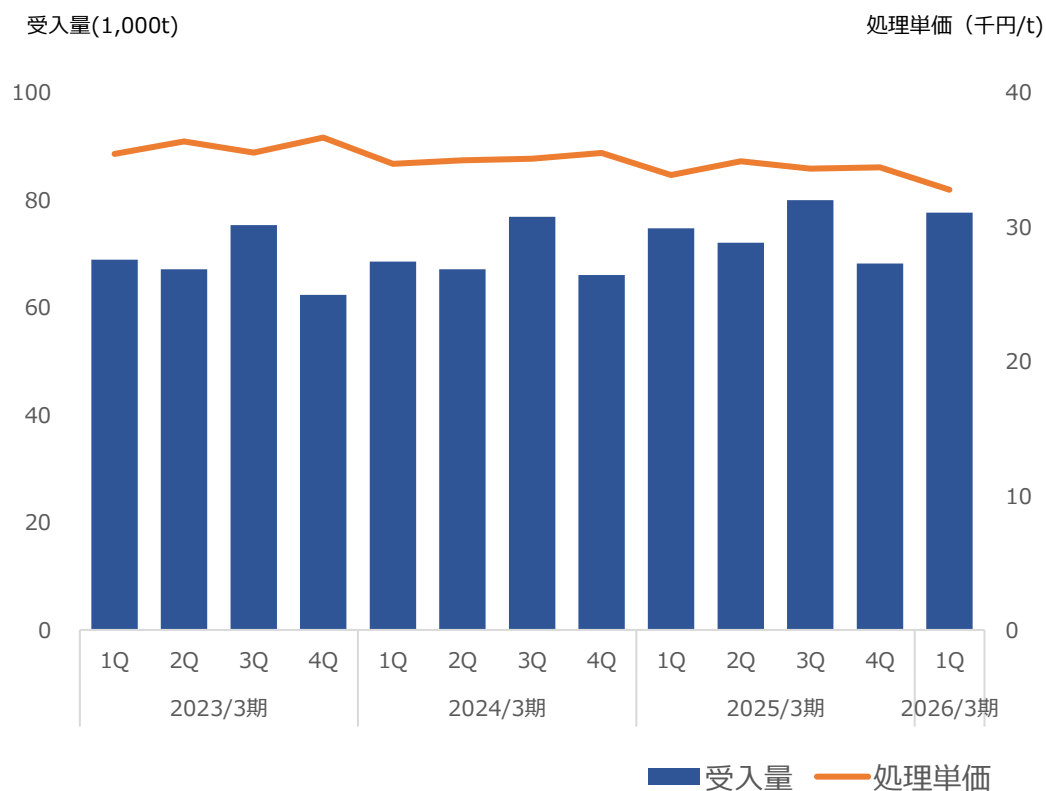
対前年同期比
+50.4%増

タービン・ボイラー更新 / 法定点検
2025年3月下旬～2025年6月まで実施

将来的な安定稼働に向けて、タービン・ボイラーの大規模な設備更新を実施

資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況

破碎設備の増強や対応可能品目の拡大により受入量の増加



※処理単価 = プラスチック燃料売上高 / 廃プラ受入量

対前年同期比

受入量 **+3.9%増**

処理単価 **△3.2%減**

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37

配当について

2025年3月期は、財務体質の健全化（繰越欠損金を解消）を実施するとともに、さらなる企業成長を加速させるため、中期経営計画における成長投資へ充当した

2026年3月期

通期計画の達成を図り、

2026年3月期 **21年ぶりの復配** を目指す
(年間配当予想: 2円)

積極的な成長投資

今期45億円の設備投資を着実に実施

Don't miss it!

① 苫小牧発電所（ボイラー・タービン）の刷新

苫小牧発電所は、2003年10月の稼働開始以降、約20年が経過
主要設備を中心に、将来的な安定稼働・効率化に向けて大規模投資を実施

タービン・発電機

2026年3月期 1 Q（4月～6月）において、現在使用している廃プラ燃料の特性に合わせた設計に変更・交換を実施

発電効率 ▶ 8%程度の向上を見込む



苫小牧発電所

ボイラー

2025年3月期から5年程度かけて、
ボイラー内部の経年劣化した配管の交換を実施中

※法定点検 2年に1度実施（タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと）



タービン・発電機

積極的な成長投資

②汚泥燃料化の第1期設備を新設

- ▶ 有機性廃液に含まれる汚泥分を固形燃料化するラインを新設中

飲食店の廃食油などからバイオマス燃料を抽出した後に残る汚泥を固形燃料化する設備を2028年度までに4ライン導入予定



＜固形燃料＞



ひびき工場（廃液処理工場）

③SAFにトライ

- ▶ 厨房から出る排水に含まれる油脂やゴミからSAF（持続可能な航空燃料）の原料化にトライします

④タイフーンの導入

- ▶ 前処理設備の導入により処理能力が大幅に向上。受入量の拡大を見込む
 - 苫小牧工場 導入済
 - 太田工場 2026年3月期下期 稼働予定

受入可能量 約17%アップを見込む



苫小牧工場 設置

Don't miss it!

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37

ホールディングス体制移行によるセグメント区分の変更

新電力事業 エネルギー領域 ▶ 資源循環領域へセグメント区分を変更

HS事業/SE事業 生産性を高めるため一つの事業部門へ統合

住環境領域

HS事業・・・戸建住宅向けサービス事業
ES事業・・・法人・事業主向けサービス事業
SE事業・・・戸建住宅向け太陽光発電システム事業

エネルギー領域

PV事業・・・・・・法人向け太陽光発電事業
新電力事業・・・電力小売事業

資源循環領域

環境資源開発事業・・・廃プラスチック処理、廃液処理、
発電事業、埋立処理など

住環境領域

HSE事業・・・戸建住宅向けサービス事業(太陽光含む)
ES事業・・・法人・事業主向けサービス事業

エネルギー領域

PV事業・・・法人向け太陽光発電事業

資源循環領域

環境資源開発事業・・・廃プラスチック処理、廃液処理、
発電事業、埋立処理など
新電力事業・・・・・・電力小売事業

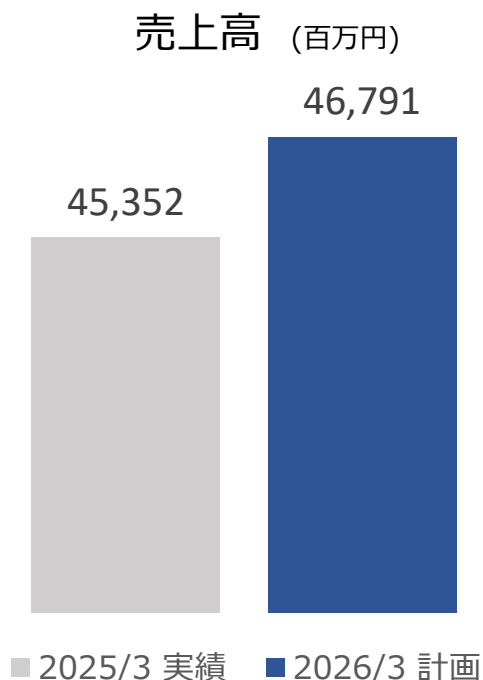
その他事業 / ホールディングス

2026年3月期 通期連結業績見通し

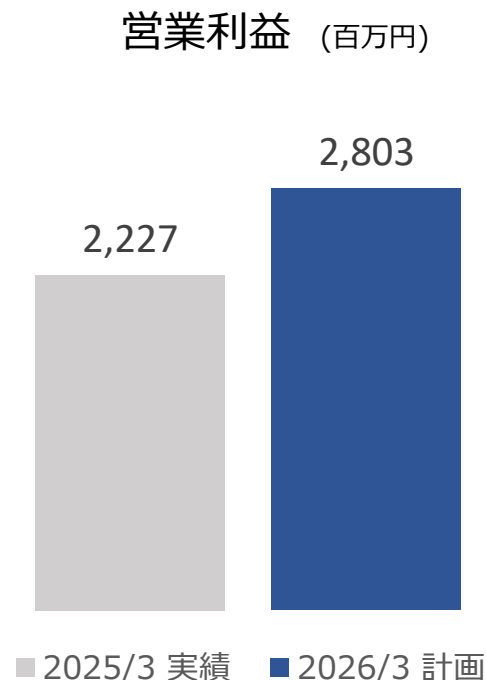
業績見通しについては、2025/5/15発表より変更はありません

対前期比 増収・増益

売上高 +3.2%増



営業利益 +25.9%増



2026年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,791百万円（前期比 103.2%）

●営業利益 2,803百万円（前期比 125.9%）

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前期差異
売上高	21,259	22,026	+767	24,092	24,764	+671	45,352	46,791	+1,439
売上総利益	7,761	7,773	+11	8,844	9,398	+553	16,606	17,171	+565
（売上高売上総利益率）	36.5%	35.3%		36.7%	38.0%		36.6%	36.7%	
営業利益	650	512	△137	1,576	2,290	+713	2,227	2,803	+576
（売上高営業利益率）	3.1%	2.3%		6.5%	9.2%		4.9%	6.0%	
経常利益	499	257	△242	1,450	2,177	+726	1,950	2,434	+484
（売上高経常利益率）	2.4%	1.2%		6.0%	8.8%		4.3%	5.2%	
親会社株主に帰属する当期純利益	270	187	△82	1,213	1,587	+374	1,483	1,775	+291
（売上高当期純利益率）	1.3%	0.9%		5.0%	6.4%		3.3%	3.8%	

通期連結業績見通し | セグメント別見通し

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前期差異
売上高	21,259	22,026	+ 767	24,092	24,764	+ 671	45,352	46,791	+ 1,439
住 環 境 領 域	7,860	8,267	+ 406	7,231	7,931	+ 700	15,091	16,198	+ 1,106
エ ネ ル ギ - 領 域	3,527	3,821	+ 294	5,844	5,865	+ 21	9,372	9,687	+ 315
資 源 循 環 領 域	9,647	9,743	+ 95	10,779	10,689	△ 90	20,426	20,432	+ 5
そ の 他	223	194	△ 29	237	278	+ 40	461	472	+ 11
営業利益	650	512	△ 137	1,576	2,290	+ 713	2,227	2,803	+ 576
住 環 境 領 域	1,031	1,286	+ 254	813	1,008	+ 195	1,844	2,294	+ 450
エ ネ ル ギ - 領 域	△ 149	△ 148	+ 0	437	735	+ 298	288	586	+ 298
資 源 循 環 領 域	1,167	739	△ 428	1,636	1,769	+ 133	2,804	2,509	△ 294
そ の 他	△ 14	△ 18	△ 4	△ 6	26	+ 32	△ 20	7	+ 28
全 社 費 用	△ 1,385	△ 1,345	+ 40	△ 1,303	△ 1,249	+ 53	△ 2,689	△ 2,595	+ 93

※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分を変更しております。
変更により、前期の数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で前期比較しております。

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

●前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び法人営業体制強化による顧客基盤の拡大を図る
- 戸建住宅向けサービスでは、生産性を高めるため、HS事業とSE事業を統合し、幅広い住宅環境ニーズへの対応を目指す
- 集合住宅向けサービスでは、防錆機器（ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大へ

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売 上 高	7,860	8,267	+ 406	7,231	7,931	+ 700	15,091	16,198	+ 1,106
売 上 原 価	3,352	3,537	+ 184	3,180	3,557	+ 376	6,533	7,094	+ 561
うち、材料費	1,095	1,133	+ 37	978	1,099	+ 120	2,073	2,232	+ 158
うち、労務費	1,139	1,251	+ 112	1,121	1,253	+ 132	2,260	2,505	+ 244
売 上 総 利 益	4,507	4,730	+ 222	4,050	4,374	+ 323	8,558	9,104	+ 545
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	3,476	3,443	△ 32	3,237	3,365	+ 127	6,713	6,809	+ 95
うち、人件費	2,129	2,246	+ 117	2,011	2,230	+ 218	4,141	4,477	+ 336
営 業 利 益	1,031	1,286	+ 254	813	1,008	+ 195	1,844	2,294	+ 450

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

●前期比 増収・増益

- 「自家消費型」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 案件ごとの採算管理の徹底及び材料コストの低減を図り、さらなる収益構造の改善を目指す

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売 上 高	3,527	3,821	+ 294	5,844	5,865	+ 21	9,372	9,687	+ 315
売 上 原 価	2,626	2,849	+ 223	4,181	4,009	△ 171	6,808	6,859	+ 51
うち、材料費	1,431	1,535	+ 104	2,453	2,344	△ 109	3,885	3,880	△ 5
うち、労務費	305	329	+ 24	344	314	△ 29	649	644	△ 5
売 上 総 利 益	901	972	+ 71	1,662	1,855	+ 193	2,564	2,828	+ 264
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	1,050	1,121	+ 70	1,225	1,120	△ 105	2,275	2,241	△ 34
うち、人件費	571	607	+ 36	626	611	△ 14	1,197	1,219	+ 21
営 業 利 益	△ 149	△ 148	+ 0	437	735	+ 298	288	586	+ 298

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

●前期比 増収・減益

- プラスチック事業では、設備増強及びマテリアルリサイクル設備の導入により受入・販路拡大へ
 - 廃液処理では、廃液処理後に発生する汚泥を燃料化する設備投資を実施
 - 発電事業では、1 Qにおいて、将来的な安定稼働・発電効率の向上に向けた大規模投資を実施
- 加えて、同期間に法定の定期点検を実施することに伴い、稼働日数の減少及び修繕コストが増加し減益となる見通し

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売 上 高	9,647	9,743	+ 95	10,779	10,689	△ 90	20,426	20,432	+ 5
プ ラ ス チ ッ ク 事 業	5,344	5,363	+ 18	5,421	5,564	+ 143	10,765	10,927	+ 162
発 電 事 業	1,359	1,293	△ 65	2,225	1,973	△ 252	3,584	3,266	△ 318
廃 液 処 理 事 業	1,083	1,131	+ 47	1,172	1,164	△ 8	2,256	2,295	+ 39
埋 立 処 理 事 業	550	520	△ 30	572	539	△ 32	1,122	1,060	△ 62
新 電 力 事 業	1,309	1,434	+ 125	1,387	1,447	+ 59	2,697	2,882	+ 184
売 上 原 価	7,348	7,714	+ 366	7,710	7,608	△ 102	15,058	15,322	+ 263
うち、労務費	1,002	1,058	+ 56	1,050	1,058	+ 8	2,052	2,117	+ 64
売 上 総 利 益	2,299	2,028	△ 270	3,068	3,080	+ 12	5,367	5,109	△ 258
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	1,131	1,288	+ 157	1,432	1,310	△ 121	2,563	2,599	+ 36
うち、人件費	661	785	+ 124	712	790	+ 78	1,373	1,576	+ 202
営 業 利 益	1,167	739	△ 428	1,636	1,769	+ 133	2,804	2,509	△ 294

1. 2026年3月期第1Q 決算概況	P. 2
2. 2026年3月期第1Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 10
②エネルギー領域	P. 15
③資源循環領域	P. 19
3. トピックス	P. 25
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 29
5. 参考資料	P. 37

2026年3月期1Q 決算概況

(百万円)	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
売上高	10,288	10,531	+ 242	102.4%	22,026	47.8%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	3,526 34.3%	3,263 31.0%	△ 262	92.5%	7,773 35.3%	42.0%
営業利益 (売上高営業利益率)	△ 116 —	△ 343 —	△ 227	—	512 2.3%	—
経常利益 (売上高経常利益率)	△ 185 —	△ 539 —	△ 353	—	257 1.2%	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (四半期純利益率)	△ 255 —	△ 640 —	△ 385	—	187 0.9%	—

2026年3月期1Q セグメント別概況

	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
(百万円)						
売上高	10,288	10,531	+ 242	102.4%	22,026	47.8%
住環境領域	3,985	3,941	△ 43	98.9%	8,267	47.7%
エネルギー領域	1,760	1,756	△ 3	99.8%	3,821	46.0%
資源循環領域	4,415	4,749	+ 333	107.6%	9,743	48.7%
その他	127	83	△ 44	65.3%	194	43.0%
営業利益	△ 116	△ 343	△ 227	—	512	—
住環境領域	528	547	+ 19	103.7%	1,286	42.6%
エネルギー領域	△ 76	△ 60	+ 16	—	△ 148	—
資源循環領域	189	△ 164	△ 353	—	739	—
その他 / 本社費用	△ 757	△ 666	+ 90	—	△ 1,364	—

※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分を変更しております。
変更により、前期の数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で前期比較しております。

セグメント別概況 | 住環境領域

(百万円)	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
売上高	3,985	3,941	△ 43	98.9%	8,267	47.7%
売上原価	1,683	1,671	△ 12	99.3%	3,537	47.2%
うち、材料費	546	480	△ 66	87.8%	1,133	42.4%
うち、労務費	567	593	+ 25	104.6%	1,251	47.4%
売上総利益	2,301	2,270	△ 31	98.7%	4,730	48.0%
販売費・一般管理費	1,773	1,722	△ 50	97.1%	3,443	50.0%
うち、人件費	1,074	1,130	+ 55	105.2%	2,246	50.3%
営業利益	528	547	+ 19	103.7%	1,286	42.6%

セグメント別概況 | エネルギー領域

(百万円)	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
売上高	1,760	1,756	△ 3	99.8%	3,821	46.0%
売上原価	1,318	1,304	△ 14	98.9%	2,849	45.8%
うち、材料費	692	709	+ 17	102.5%	1,535	46.2%
うち、労務費	140	146	+ 5	103.8%	329	44.3%
売上総利益	441	452	+ 10	102.5%	972	46.6%
販売費・一般管理費	518	513	△ 5	99.0%	1,121	45.8%
うち、人件費	279	320	+ 41	114.7%	607	52.8%
営業利益	△ 76	△ 60	+ 16	—	△ 148	—

セグメント別概況 | 資源循環領域

(百万円)	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2026/3期 上期 計画	進捗率
売上高	4,415	4,749	+ 333	107.6%	9,743	48.7%
プラスチック事業	2,689	2,707	+ 17	100.7%	5,363	50.5%
発電事業	379	571	+ 191	150.4%	1,293	44.2%
廃液処理事業	527	585	+ 58	111.0%	1,131	51.8%
埋立処理事業	264	231	△ 32	87.6%	520	44.5%
新電力事業	554	653	+ 99	118.0%	1,434	45.6%
売上原価	3,662	4,235	+ 573	115.7%	7,714	54.9%
うち、労務費	502	526	+ 24	104.8%	1,058	49.7%
売上総利益	753	513	△ 239	68.2%	2,028	25.3%
販売費・一般管理費	564	678	+ 114	120.3%	1,288	52.7%
うち、人件費	329	390	+ 60	118.3%	785	49.7%
営業利益	189	△ 164	△ 353	—	739	—

財務状況

単位:百万円	2025/3期 期末	2026/3期 1Q末	前 期 末	
			差異	前期比
流動資産	13,873	13,201	△ 671	95.2%
固定資産	22,781	24,488	+ 1,706	107.5%
資産合計	36,655	37,690	+ 1,034	102.8%
流動負債	16,910	18,486	+ 1,575	109.3%
固定負債	9,574	9,625	+ 51	100.5%
負債合計	26,484	28,112	+ 1,627	106.1%
純資産合計	10,170	9,577	△ 592	94.2%
負債純資産合計	36,655	37,690	+ 1,034	102.8%
自己資本比率	27.7%	25.4%		

設備投資・減価償却費 実績

	2025/3期 1Q 実績	2026/3期 1Q 実績
(百万円)		
住環境領域	9	11
エネルギー領域	61	60
資源循環領域	1,592	1,898
ホールディングス	4	75
設備投資合計	1,668	2,046
減 価 償 却 費	395	410

【主な設備投資】

【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資 : 30百万円

【資源循環領域】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 1,538百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 241百万円
- 廃液処理設備にかかる投資 : 113百万円

セグメント別 人員・拠点数

		2025/3期 期末		2026/3期 1Q末		人員増減
		拠点数	人員数	拠点数	人員数	
住環境領域		71	1,016	71	1,061	+45
エネルギー領域		27	263	27	279	+16
資源循環領域		19	505	19	531	+26
その他/ホールディングス		—	270	—	197	△73
合 計		—	2,054	—	2,068	+14

※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分の変更並びに人員の移動を行っております。
変更により、前期の数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で前期比較しております。

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※環境資源開発部門は、発電所1拠点、最終処分場1拠点含む

重要経営指標

		2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	—	24.8%	36.1%	15.6%	16.1%
総資産経常利益率	ROA	—	4.5%	9.8%	5.3%	6.4%
自己資本比率		13.5%	18.0%	24.1%	27.7%	30.0%
投下資本利益率	ROIC	—	8.4%	14.4%	7.9%	9.8%
設備投資（百万円）		2,776	1,566	2,743	4,053	4,500
減価償却費（百万円）		1,509	1,889	1,654	1,701	1,800

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。
- ・ セグメント間の内部売上高調整額を相殺した金額にて記載しております。

次世代へ快適な環境を
SANIX